

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2020 年度第 1 回教育課程編成委員会 バイオ・環境系分科会	
開 催 日 時	2020 年 7 月 22 日 (水) 15 時 40 分～17 時 00 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1104 教室	
参 加 者	外部委員：4 名	内部委員：6 名
	＜外部委員：4 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 市川 和登 (トコスエンタプライズ株式会社) 早乙女 俊行 (ペントロン ジャパン株式会社) 佐々 義子 (特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ 21 常務理事) 藤沼 俊則 (NEC 株式会社 都市・交通基盤事業部／グローバルビジネス推進部 マネージャー 兼 医療ソリューション事業部エキスパート) ＜内部委員：6 名＞ 大江宏明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科长) 大藤道衛 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 宮ノ下いづる (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 今野祐二 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科长 議長) 井上綾子 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科主任 書記) 河合聰実 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科)	
会 議 録	＜バイオ・環境系分科会＞15 時 40 分～17 時 00 分 - 議長挨拶 (大江) 新規の内部委員挨拶 (宮ノ下、河合) 2019 年度第 2 回議事録の訂正等確認 2020 年度第 1 回議題の確認 ※詳細は次頁以降参照のこと。 3.1 2020-2021 年度カリキュラム、シラバスについて 3.2 専門人材育成訓練受託状況 3.3 2020 年度就職内定状況について 3.4 教育活動状況について 3.4.1 Covid-19 感染予防対応 3.4.2 リアルジョブプロジェクト(RJP)の取組み状況・課題 3.4.3 外部へのアナウンス活動 (市民講座：TTC バイオ-カフェ、Eco-Café) 3.4.4 その他 2020 年度第 2 回教育課程編成委員会の連絡 - 閉式の辞	

3.1 2020-2021 年度カリキュラム、シラバスについて

3.1.1 環境テクノロジー科のカリキュラム、シラバスについて

来年度は現行のカリキュラムから変更はないが、現行カリキュラム開始から 5 年経過するため、現状を踏まえてカリキュラムの見直しを始めている。

3.1.2 バイオテクノロジー科のカリキュラム、シラバスについて

前回までの報告から大きな変更点はない。

3.2 専門人材育成訓練受託状況

【現在の状況】

● バイオテクノロジー科

- ・昨年度から訓練生の受け入れが始まり 3 名入学、うち 1 名が退学。
- ・今年度は募集枠 5 名に対し、受験者 5 名、入学者 2 名に決定した。

● 環境テクノロジー科

- ・今年度から訓練生の受け入れが始まり、募集枠 5 名に対し 2 名の入学が決定した。しかし入学前に 1 名が急遽辞退し、今年度の入学は 1 名である。

● その他

- ・毎年 12 月ごろにパンフレットができ、ハローワーク経由で公募される。希望者があれば 1 月に学校見学や説明会が行われ、その後面接試験を受けて決定する。web 動画クリエイター科は 3 名の募集枠に対し多くの希望者が集まった。
- ・訓練生は日報を書いて学校に提出しなければならない。学校は日報や毎月の出席および欠席書、時間割（授業計画）などの書類をそろえて定期的に都に提出する。

【外部委員からの質問】

- ・就職の斡旋は学校がするのか
⇒ 基本的にはハローワークで就活するので学校で斡旋しなければならないわけではないが、卒業時までには就職が決まるよう指導はしていく。
- ・一般の学生と同等に扱うのか。
⇒（授業や学校生活では）一般の学生と同じ対応である。

3.3 2020 年度就職内定状況について

【現在の状況】

- ・ Covid-19 による自粛の影響で就職活動自体は後ろにずれ込んだが、幸いなことにバイオテクノロジー科も環境テクノロジー科も昨年並みに求人はいただけている。
- ・ 昨年度の卒業生も Covid-19 による内定取り消しは発生していない。
- ・ 2 年生の現段階における内定率は 50%程度である。
- ・ 今年の特徴は web を使った説明会や面接が増えたことである。最終面接まで全て web で行う企業もある。
- ・ Wi-fi 接続は通信が途切れたり遅くなったりすることがあるため、できるだけ有線で接続するよう指導している。登校日に校内で web 面接を受けることもあるため、通信環境も含めて web 面接用に教室を用意する必要が出てきた。

【外部委員からのアドバイス】

- ・（採用試験で）web 面接をしていると慣れている人と慣れていない人の差が顕著に見られる。印象は評価に影響すると思うので慣れは重要だと思う。zoom を使っていることが多いと思うが、学生間でも良いので普段から zoom を使って練習をすれば違ってくるのではないかな。視線もカメラの位置によって印象がだいぶ違ってくるので気を付けた方が良い。
- ・ 最終面接まで web で行うというのは今後のスタンダードになる可能性もある。
- ・ 例えば 15 分おきに学生と（zoom 上で）会話をするとか、普段の授業の中で工夫して学生が zoom を使った会話に慣れるようにした方が良い。
- ・（web 上で）会話しながらメモをとる練習も必要。
- ・ パソコンのスペックも重要。お互いに画像と音声を送るので、スペックが低いと途中で止まることもある。
- ・ オンラインで発言する時は、名前を告げてから発言した方が良い。

【内部委員からの意見】

- ・オンライン授業を受けている時と同じようにカメラを使っていると画面が暗く、印象が悪くなるので、ライトの位置を変えて明るくした方が良い。
- ・zoomはトランシーバーと同じ。「相手が話している時は、こちらは話さない」を徹底する必要がある。
- ・タイムラグのある中での会話の練習が必要。
- ・全家庭がweb面接に適した環境が整っているわけではない。来年のためにも学校としてカメラを準備して通信の切れないブースを設けても良いかも知れない。
- ・背景にプライベートな様子が見えた方が人となりがわかるので、バーチャル背景も良いが、逆にプライベートな部分を見せてアピールするのも有効だと思う。

3.4 教育活動状況について

3.4.1 Covid-19 感染予防対応

【現在の状況について】

- ・まずコロナウイルスを学内に持ち込まないというのが基本的な考えである。毎朝、自宅での検温や登校時のアルコール消毒、実習室入室時の手洗いを励行し、教室は掃除当番による朝・夕の消毒作業などを実施している。
- ・講義はオンライン授業が可能なので、zoomを使ったオンライン授業を実施した。オンライン授業でも対面授業と同様にカルテを実施している。
- ・バイオテクノロジー科、環境テクノロジー科の実習はオンライン授業に置き換えられない。実習は対面で行うが、教室のドアを開放し、換気設備による換気を常時行っている。空気清浄機も設置している。
- ・実習中は人と人の距離が近くなりやすいので、マスクに加えてフェイスシールドも使うように指導している。
- ・フェイスシールドは個人個人に配布してあり共用はしない。保護メガネも1人1個持っている。
- ・フェイスシールドは呼気で曇って視界が悪くなることが多い。また、長時間着用しているとゴムの締め付けで頭痛を起こす学生もあり、途中で外してしまうことがある。フェイスシールドの着用を徹底するために、曇り止めを使用するか、別のタイプの製品も検討したい。
- ・バイオテクノロジー科は、実習内容によって空調を止めて実習室を密閉状態にしなければならないことがある。その場合は、密閉状態で行わなければならない作業を極短時間に絞り、また学生を少人数のグループに分けて、グループ毎に実習室を使うようにしている。
- ・微生物実習では実習室のドアを常時開放することができないため、人数の多いクラスを2グループに分け2室に分散して実習を行う予定である。

【外部委員からの質問】

- ・学生のコミュニケーションはどうか。
⇒1年生は入学してすぐに自粛期間に入ってしまったので当初は心配したが、学校が再開してから学生間も直接話せるようになったので問題ないようである。
⇒デジタルネイティブな世代なのでSNSでのやり取りも慣れている。対面で会ったときにはオフ会で会ったような感覚なのかもしれない。オンライン授業になってから教員とのコミュニケーションはすごく高まっているように感じる。
(オンライン授業では)直接話さなくてもチャット機能でやり取りができるので敷居が低くなったのではないかな。
- ・学生は朝晩の検温があるのか。
⇒自宅で毎朝検温するようお願いはしている。学校では、現在のところ8:50～9:30頃まで校舎入口にて体温チェックをしている。

【外部委員からのアドバイス】

- ・学生に「朝晩の体温を計っていざという時に出せるようにしておきなさい」と指導している大学もある。サイエンスをやっているので自分の健康を把握できるという考え方はこれから一生やらなければならないかも知れないし、習慣づけられると良い。
- ・科学館で講師をする時は2週間記録をつけなければならない。
- ・記録がないところに管理はない。

3.4.2 リアルジョブプロジェクト(RJP)の取組み状況・課題

【現在の状況】

●バイオテクノロジー科

外部の方をお招きした実験教室はできないと考え活動テーマを見直している。

●環境テクノロジー科

自粛期間に対面授業ができず、時間割の変更が発生した。そのため2期RJPを4期に、3期RJPを5期に移動した。これにより週2コマ(半日)で実施していたRJPを週4コマ(1日)で実施できるようになる。内容は検討中である。

3.4.3 外部へのアナウンス活動(市民講座:TTCバイオ-カフェ、Eco-Café)

【現在の状況】

●TTCバイオ-カフェ:現在のところ延期に決まった。

●Eco-Café:様子を見ながら進めていく。今のところ9月、11月、2月を予定しているが、状況によっては中止にする。

【ウェビナーの活用について意見交換】

●内部委員

・無料のウェビナーはできなくはないと思うが、有料の場合は素人では運営しきれなくて皆さん苦勞されているようである。

●外部委員

・オンラインで実施してみた。きまった人にだけIDを配布する、申込時と名前が異なれば入室を許可しない、ホストから指示があるまで聴講者は全員ミュートにしてもらう、参加人数が多いときは名前の初めにマークをつけるなど、予めルールを決めて運営すると良い。

・慣れてくると素人のグループでも、入室許可をする人、チャットを読む人、ファシリテーター、スピーカーなど、ハウリングしないように4か所にいて協力して運営できる。会場とオンラインの併用もわりと上手くいった。遠くの人も参加できるので、移動しながら見ている人もいた。

・オンラインなら新しい集客もできるメリットがある。

・学術会議は有料ではなく寄付にしていた。

3.4.4 その他

●外部委員

・広い教室で講義をしていた時より、オンラインの方が好意的なレポートが多かった。オンラインだと学生がさぼってしまうと考える先生もいるが、そうではないと思う。

・顔出しを義務付けている先生もいる。

●内部委員

・授業の出席率やレポートの回収率が良くなった。

4. 2020年度第2回教育課程編成委員会の連絡
2020年11月27日(金)実施予定

5. 閉式の辞(大江)

以上